

HP 掲載研究情報

研究課題名 「十二指腸 ESD を安全かつ効率的に施行するための工夫―術中穿孔予防（S-O クリップ）と遅発性穿孔予防（ポリグリコール酸シート被覆法）―」について、研究協力をお願い

【研究目的】

十二指腸腫瘍に対する治療は、外科手術となれば臍頭十二指腸切除術となり大手術なるため内視鏡治療はメリットが高いものの、十二指腸腫瘍に対する治療を行っている施設は少ないのが現状です。理由は、十二指腸は壁が薄く、術中穿孔率が非常に高いことが挙げられ、また、術後も切除後の潰瘍底に胆汁や胆汁が暴露されることによる遅発性の穿孔が他の消化管よりも高率であることも原因であります。内視鏡治療（ESD）施行中に、最も穿孔し易いのが、粘膜下層の剥離ですが、大腸 ESD で使用されている S-O クリップ（ゼオンメディカル社製）を用いることで術中剥離において術中穿孔が減少するか、および胆汁胆汁暴露を予防するためにポリグリコール酸シートを用いた被覆法によって遅発性穿孔が減少するかを検討することを目的として研究を行います。

【研究の対象者】

過去に十二指腸腫瘍に対して ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)を行った方

【方法】

電子カルテなどの診療情報から、十二指腸腫瘍に対して ESD を行った方を抽出し、必要な情報を収集・検討します。

【個人情報】

当研究のデータ収集に際しては、対象者様を特定しうる情報は院内で厳重に管理し、個人が同定されないようにして検討等を行います。又、学会発表など研究の成果を発表いたしますが、その場合においても、対象者様が特定されることはございません。

本研究は、日常の一般診療・治療として行われたものの観察研究であり、新たに直接的な侵襲を付加するものではありません。また、研究は当院の倫理審査委員会の承認を得ております。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願い致します。

当研究に関してご質問がある方や、対象となる方でご自身のデータが研究に利用されることを拒否される場合は、お手数ですが平日の 9 時から 17 時の間に下記医師までご連絡・ご相談頂きますようお願い申し上げます。

研究代表者 国立病院機構京都医療センター

消化器内科 滝本 見吾

電話 075 (641) 9161 (代表)